

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

昨年と大問の構成は変わらず、<パート1>読解総合問題、<パート2>読解総合問題、<パート3>自由英作文となっている。

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴

例年、出題される長文には医療系の内容のものが含まれる。また、英問英答式の問題が今年も引き続き出題されていて、昨年までは自分の意見を述べる設問が1題あったが、今年は2題共に本文の内容の説明を求めるものになった。自由英作文はテーマが昨年までの一般的なものから、今年は医学部で学んでいく姿勢を問うものになった。詳細な指示に基づいて答案を作成することが求められているのは例年通りである。必要とされる語数は一昨年までの150 words 以上から昨年は100 words 程度に減少し、今年も同様だった。しかし、読解問題の語数が増え、英問英答式の設問などもあるので、90分という解答時間は決して十分とは言えず、時間的な制約は例年通り厳しい。読解問題の分量が多いので、文章の大きな流れをとらえると同時に、内容一致問題では細部に気を配る必要がある。例年指示があいまいな設問があるので、文脈から何が問われているのか、何が問題とされているのかを自分で的確に判断すべき場合があることにも留意しておきたい。

その他トピックス

<パート1>は昨年から医療的なテーマに戻り、専門性が高く、時事的な内容になっている。時事的な内容であることに変わりはなく、出典はTIMEである。<パート2>は昨年と同様に医療系のテーマだった。例年英問英答式の設問が出題されているが、昨年は意見を求めるものがあつたことにも留意しておきたい。時事系の英文、医療系のテーマの英文が出題され、専門性が上がっているのは、最新の医療問題に対して関心があるか、医療に関する時事的な英語の文献を読みこなす素養があるかを問う意図があると思われる。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
<パート1>	読解総合	mRNA ワクチンの開発経緯と有効性 (1,086 words)	<p>昨年は出典が The New York Times だったが、今年は TIME だった。</p> <p>難単語が散見され、例年、語句注が付されているが、一昨年は4、昨年は21、今年は30と増加傾向にある。これは、英文の専門性が上がったことが背景にあると思われる。専門性が上がった結果として、語句の背景知識も必要になる。</p> <p>設問2は、どの程度まで説明すればいいのか迷った受験生がいると思われる。設問3は指示が明確で、該当箇所を見つけるのにも苦労しないため、解答するのは容易だったであろう。設問4の内容一致問題は、選択肢の順番が本文に登場した順番通りではないこと、本文の該当箇所が明確なものの、一部の語</p>	やや難

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
<パート2>	読解総合	利他の行動の健康に対する好影響 (1,045 words)	<p>句に変更を加える等の巧妙な選択肢があることに留意しておきたい。</p> <p>《出典》 Park, A., &amp; Ducharme, J. (2021, December 27, &amp; 2022, January 3). The miracle workers. <i>TIME</i>, 62-68.</p> <p>語数が1,045 wordsで昨年の761 wordsから284 words増加したが、内容が平易なので難易度に影響はない。</p> <p>今年もウェブサイトが出典である。例年通り英問英答式の設問が2題あったが、意見を求める問いがなくなり、本文の内容に即して説明を求める問いだけになった。しかし、昨年は意見を求める問いもあったので、英語で解答し、さらに意見を述べる演習も積んでおきたい。</p> <p>空所補充問題の選択肢は、全空所共通で品詞が異なるので、文構造から品詞を絞り込むことができる。この数年は選択肢に難易度の高い語は少なくなってきたので、語彙レベルが配慮された傾向が続いていると言える。他の選択肢と区別が難しいものがいくつかあるが、後ろまで読んだ上で絞り込むことができるので、選択肢を絞れない空所で立ち止まらずに、読み進めていくべきである。また、たとえば正解の <i>predictors</i> に対して、同じ段落内に <i>predicted</i> のようにヒントがある場合があるので活用したい。</p> <p>《出典》 Martela, F. (2018). Exercise, eat well, help others: Altruism's surprisingly strong health impact. <i>Scientific American</i>. <a href="https://blogs.scientificamerican.com/observations/exercise-eat-well-help-others-altruisms-surprisingly-strong-health-impact/">https://blogs.scientificamerican.com/observations/exercise-eat-well-help-others-altruisms-surprisingly-strong-health-impact/</a></p>	やや難
<パート3>	自由英作文	「医学部で想定される試練と研究意欲の維持」 (103 words)	<p>求められている語数が一昨年度までの150 words以上から昨年は100 words程度に減少し、今年も同様であった。指示に従い、設定されているいくつかの条件に従って解答しなければならないのは例年通りである。また、語数は減少したものの、指示が細かいので、簡潔にまとめることがポイントになる。昨年までは一般的なテーマだったが、今年は医療的なテーマになった。文法的なミスなく解答するために、自由英作文の演習を始める前に文法学習を</p>	やや難

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
			終えておきたい。	

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

### <学習対策>

- (1) <パート1><パート2>の読解総合問題に関しては、時事的な英文や医療系の英文に接したり、英語で設問に答えたり意見を述べたりする訓練を日頃から継続的に行いたい。また、背景となる時事問題は最新のものもあり、医療系の英文の内容は専門性が高いので、背景知識が求められる。したがって、最新の時事問題や医療問題に対しても日頃から関心を持つようにしたい。実際、昨年11月18日の静岡新聞に、浜松医科大学による「新型コロナワクチン効果追跡調査」の記事が掲載されている。とはいえ、文法や構文把握が土台となるので、高校の教科書レベルの学習もきちんと行っておきたい。文法や英作文も取り入れてバランスよく学習を進めるべきである。
- (2) <パート3>の自由英作文の難易度は高い。医療系から一般的なものまで、多様なテーマで演習しておきたい。しかし、形式は従来のものを踏襲しているため、十分に対策をとっている受験生は対処できる。対策を怠ると他の受験生に大きく差をつけられるので注意したい。